

解剖を実践に生かす 図解 前立腺全摘術

影山幸雄 執筆

吉岡邦彦, 近藤幸尋, 蜂矢隆彦 執筆協力

＜書評者＞ 武中 篤（鳥取大学教授・腎泌尿器学）

著者・影山幸雄先生は、これまで数々の講演で見事なオリジナルスライドを用いて前立腺全摘、特に小切開手術の詳細な術式を解説されてきた。いつか書物として刊行されれば、前立腺全摘を行う多くの泌尿器科医にとって有用な手術書となるのに、と考えていたのは、私だけではないだろう。

著者も述べておられるように、手術はよく自動車の運転にたとえられる。快適かつ安全な運転のためには「ロードマップの更新」と「ドライビングテクニック」、この双方が必要である。「ロードマップ」とは、現在では「カーナビゲーション」と言ってもよいかもしれないが、これはとりもおさず「外科解剖」に相当すると考える。「カーナビゲーション」は2年も経つと現状にそぐわなくなり更新が必要となるが、外科解剖におい

ても術式の進歩に伴った「更新」の必要性は高いと考えている。特に、ロボット支援手術の登場により、「ドライビングテクニック」の多くは手術用ロボットが補完できるようになり、「ロードマップ」の重要性はますます高まっている。

本書は、タイムリーにも、サブタイトル「解剖を実践に生かす」のごとく、外科解剖に大きな焦点が当てられている。そして、小切開手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術、それぞれに必要な外科解剖を詳細に提示している。第1章では各術式に共通する外科解剖が示され、そして各術式を解説した第2～4章には個別の解剖学的所見がちりばめられている。まさに「ロードマップの更新」を実感できる手術書である。しかし、これだけ詳細な外科解剖を目の前にする

と、著者の真意は別のものではなかったと勘繰りたくなる。すなわち、著者は各種術式の完成度を向上させていく中で、真の前立腺外科解剖を明らかにすることをむしろ最終目的としていたのではないだろうか。

国内で、前立腺全摘に関し、小切開手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術の3術式すべてに精通している泌尿器科医はおそらく存在しない。ある術式に精通している術者は、逆に他の術式に懐疑的なコメントを述べることも多い。その中で、本書の特徴は3術式すべてを肯定的に掲載している点である。各術式のエキスパートが惜しげもなくそのコツを披露し、執筆に協力されている。著者のお人柄に加え、「3術式を通し前立腺外科解剖を明らかにしたい」という強い思いに、各エキスパートが心を動かされたからに違いない。

●A4 頁320 2013年

定価：本体 14,000 円＋税

[ISBN978-4-260-01752-7]

医学書院 刊